



富竹中だより

甲府市立富竹中学校
学校だより第7号
平成30年9月28日
文責 戸澤

全国学力・学習状況調査の結果について



本年度、全国学力・学習状況調査が、全国の小学校6年生と中学3年生を対象として実施されました。本校でも、3年生が、4月17日（火）に参加しました。

この調査は、教科に関する問題（国語・数学・本年度は理科）と生活習慣や学習習慣等に関する質問紙調査に分かれています。教科に関する問題では、さらに国語と数学について、「知識」に関する問題（A問題）と「活用」に関する問題（B問題）に分かれて行われました。この調査結果をもとに、本校の学力や学習状況を分析・把握し、各教科における成果や課題、生活状況の実態を明らかにすることで今後の指導の改善に役立てることを目的としています。

本年度は、2学期からこの結果を役立たせるため、文部科学省から7月末に結果が送付され、各教科担当が中心となって分析を行ってきました。また、この分析をもとに、富竹祭や新人戦の取組と並行して授業改善へ向けて取り組んでいるところです。つきましては、分析結果の概要を、取り急ぎお知らせいたします。3年生には個人票が配布されます。自己の結果を確認し、今後の学習に役立ててほしいと思います。1・2年生にも教科の授業改善や家庭学習の取組に生かしていくように活用していきます。

本校の状況

※「ほぼ同等」とは±5ポイントの範囲内にあることをいう

各教科の平均正答率は、国語A・B、理科については、全国平均を下回ったものの、「ほぼ同等」といえる結果でした。ただ数学は、若干ほかの教科より低い結果でした。また、「A問題」よりも「B問題」の正答率が各教科共に低い傾向です。質問紙調査では、ほぼ全国平均と同様な結果が見られています。「家庭学習の時間」「地域の方とのかかわり」について若干低い値が見られています。しかし、家庭での読書の時間は、全国平均を上回っています。



本校の主な成果と課題

国語

A 主として「知識」に関する問題

- 設問により差は見られるものの、各領域ともほぼ全国平均に近い正答率である。
- 「文脈に沿って語句の意味を理解する」「段落相互の関係に注意して分かりやすい文章にする」「古典に表れたものの見方や考え方を理解する」など、内容に沿って理解する設問の正答率は高い。
- △全国的な傾向と同様に「言語についての知識・理解・技能」に関する設問の「語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使う」については、本校においても他の設問に比べて正答率が低い。また、「文の成分の順序や照応、構成を考えて適切な文を書く」設問も、全国平均を上回っているものの、他の設問に比べ正答率は低い。



B 主として「活用」に関する問題

- 設問により差は見られるものの、全体を通して県や全国とほぼ同じ正答率である。
- 全国の傾向と同様に「書くこと」の正答率は低いが、「相手に的確に伝わるようにあらすじを捉えて書く」設問については全国平均を大きく上回っている。
- △「話す力・聞く力」に関する設問の正答率は全国を下回っている。特に「質問の意図を捉える」「全体と部分との関係に注意して相手の反応を踏まえながら話す」というコミュニケーションに関わる設問の正答率が低い。

☆ 主な改善点

- *漢字の読み書きは確実に身につけさせたい基礎的・基本的な事項である。日頃からの学習習慣が大切であり、授業の中での取り組みはもちろん、日常生活の中での活用も意識して行っていく。
- *慣用句や文法等の言語事項に関わる内容を、授業の中でも意識して取り組み、言語能力の育成を図る。
- *「話す力・聞く力」を育成するため、小グループによる話し合い活動などのコミュニケーション活動を意識的に取り入れていく。

数 学

A 主として「知識」に関する問題

- 「数と式」と「図形」の領域に関する設問で、全国の平均正答率を上回るものがいくつかある。
- △「関数」領域では、全般的に理解が不十分であることがわかった。特に与えられた座標を座標平面上に表すといった極めて基本的なことができない生徒が多い。
- △多くの設問で無回答の割合が全国・山梨県と比較して極めて高かった。理解できていないということがベースにはあるが、「何とかしよう。」という意欲に欠ける生徒が目立つ。



B 主として「活用」に関する問題

- 「数と式」の領域に関する設問では、全国平均をやや下回るものの、ほぼ近い結果である。
- △A問題と逆で「図形」領域に関する正答率が全国平均との差が一番大きかった。基本的な事項はある程度理解できているものの、それが論証などの活用する場面につなげるところまで力がついていない状況だということが分る。
- △記述式の問題に対する正答率が低く、無回答率は極めて高い。

☆ 主な改善点

- *まずは下位層の生徒の底上げをする必要があると考える。数学に対する苦手意識からか、問題を見る前から諦めている生徒も多い。全体指導の中では十分な指導が困難な面があるので、放課後等の個別指導を充実させることを通して、数学に対する苦手意識を払拭させ、粘り強く取り組もうとする姿勢を養っていく必要がある。
- *基礎的・基本的な学習事項の定着が急務なので、課題の出し方の工夫・改善や小单元ごとの確認テストの実施を通して、定着を図っていく。
- *記述式の問題（説明する問題）に対しての正答率を上げるために、授業中に生徒に説明させる場面をこれまで以上に多く設定したり、定期テストの問題でも記述式の問題（説明する問題）を設定したりするように意識していく。
- *領域別では、特に「関数」領域についての理解が不十分であるため、まずは基本的な事項をしっかりと押さえることをしたい。また、身近で具体的な教材を扱うことで、とっつきやすく必要性を感じられるような活動を取り入れていく。



☆ 成果 と 課 題

- 「知識」に関する問題については、濃度が異なる食塩水のうち、特定の質量パーセント濃度を指摘することができる問題に関しては、県や全国平均に比べて正答率が高かった。
- 「活用」に関する問題については、自然の事物・現象と実験の装置や操作を対応させたモデル実験を計画できる問題については、県や全国平均に比べて正答率は高いものになっている。
- △「知識」に関する問題については、電流計を回路につないで操作する技能及び電気用図記号についての問題に関しては、県や全国平均に比べて正答率が低かった。実験時に他者に電気回路作成を任せになってしまう事が多かったと考えられる。
- △「活用」に関する問題については、観察・実験を分析して解釈し、考察した理由を指摘する問題に関して、県や全国平均に比べて正答率が低かった。他者の考察を考察して分析解釈する力が十分にできていないと考えられる。

☆ 主 な 改 善 点

- *理科で学習した知識・技能を日常生活の中でさらに活用できるようにするため、身のまわりの物を使って実験を行う機会を増やし、単元の終わりに課題解決できるような場面を増やしていく。
- *「知識」に関する問題の正答率を上げるため、回路の知識・技能を活用して、電流や電圧を測定したり、回路図に表したりする学習の場面をできるだけ多く設定していく。
- *科学的な思考力や表現力を育成する上で、目的意識を持って観察・実験を行い、得られたデータを分析して解釈し、科学的な根拠を踏まえ、論理的な思考に基づいて考察を行っていく。

質問紙調査から見る本校生徒の主な特徴

質問紙調査は、学校や家庭における勉強や生活の様子について調査したものです。全部で59項目ありました。本校生徒の生活習慣や家庭学習、家庭での過ごし方などを表しています。主な特徴は、次のとおりです。

☆自分や友達、学校生活について

- *「将来の夢や目標をもっている」生徒は7割を割り、全国平均からは若干下まわっているが、「人の役に立ちたいと思う」生徒は9割を超えている。
- *「自分には、良いところがあると思う」と答えている生徒は、8割に届かない。しかし「先生は、良いところを認めてくれている」と9割程度の生徒が感じている。全国平均から比べて大きく上回っている。
- *「学校の規則を守っている」「いじめはどんなことがあってもいけないこと」と答えている生徒が9割を超えている。



☆生活習慣について

- *「朝食を毎日食べている」生徒は、8割を超えている。昨年の調査より向上しているものの全国平均からは若干下まわる結果となった。
- *「毎日同じ時間に寝ている」は7割を下回っているが、「毎日同じ時間に起きている」は9割を超えている。
- *3分の2を超える生徒が、「家で、自分で計画を立てて勉強している」と答えている。全国平均から大きく上回っている。

- *家庭学習の内容は、9割を超す生徒が「宿題をしている」と答え、「授業の予習・復習をしている」と答えた生徒は、5割を割っている。
- *家庭学習の時間は、4割の生徒が1時間未満で、全国平均から下回る結果となっている。しかし、読書をしている時間は全国平均を上回っている。
- *「放課後に何をして過ごしているか」という質問には、7割を超えているものは、「部活動」と「テレビ・ビデオ・ゲーム・インターネット」だった。また、「週末は…」でも同じような傾向がみられる。

☆地域社会への関心について

- *「地域や社会で起こっている問題に関心がある」生徒は、5割を割り、「地域や社会をよくするために何をすべきか考えたことがある」生徒は、3割を割っている。共に全国平均を下回る結果であった。
- *「地域社会などでボランティア活動に参加したことがある」生徒は8割を超えている。これは、全国平均を大きく上回っている。
- *「新聞を読んでいる」生徒は、2割を割っている。
- *「テレビのニュースやインターネットのニュースを見る」生徒は9割を超している。

☆質問紙からの改善点

*自己有用感を持たせる

→教師からの認知はされていると感じていることから、多くの体験を通して結果よりも努力を誉め、自信を持たせられるような取り組みをしていく。また、人の役に立ちたいという願いを多くの生徒が持っている。その具体的な目標を持たせることができるように、キャリア教育の充実に努め、将来の夢や目標をもてるようにさせたい。

*家庭学習の充実

→自主学習ノートの取組や、家庭学習の手引き等の利用で学習の習慣化はされてきた。しかし、内容的に予習・復習まで取り組めていないことから、家庭学習の手引きを有効に活用できるよう取り組みたい。今年度、家庭学習のファイルを各個人に持たせ、学校と家庭との連携を強化している。また、授業でも「見通し」「振り返り」を意識しているので、これが、「予習・復習」につながるように、さらにこのことを意識した授業改善に努める。



*地域との連携を深める

→地域の様々な活動に積極的に参加することで、地域での存在感を感じさせ、地域発展に関与させていく。また、地域の活動を通して、小学生への指導などリーダーシップを発揮することで、自信をつけさせたい。

☆ご家庭へのお願い

- *多くの子どもたちは、学校生活や家庭生活が安定している様子が見られます。しかし、自信が持てないお子さんも多いようです。ご家庭での団らんが、心の支えになるかと思えます。また、生活習慣と、学力との関係は深いものです。生活リズムを整え、親子で規則正しい生活の実践をお願いしたいと思います。
- *家庭学習は、習慣化されてきていると思えます。しかし、学習時間や内容が課題です。家庭に配布しています、「家庭学習の手引き」を活用し、学習が充実できますようご支援していただきたいと思えます。読書を好きなお子様も比較的多くいます。読書と学力にも深い関係があることがわかっています。スマホを置き、テレビを消して読書の時間を作っていただきたいと思えます。
- *地域の活動にも、一緒に参加していただくとお子さんが地域と関わりやすくなると思えます。日常的に関われますようご協力をお願いします。